

国境の町疲弊した人々

AMDAなど ウクライナ避難者支援

ロシアの軍事侵攻を受けてウクライナから避難する人々の支援のため、隣国ハンガリーで活動する国際医療NGO「AMDA」（岡山市）と徳島県吉野川市のNGO「TICO」による現地活動報告会が31日、岡山市の岡山国際交流センターであった。

ハンガリーでの活動報告

ハンガリーには約35万人のウクライナ人が避難している。両NGOはこれまで

に8人の医師や看護師らをハンガリーに派遣し、医療活動を行っている。3月9



ウクライナ国境に近いハンガリーのベレグスラーニー村の仮設診療所で治療を行う医師ら＝26日、AMDA・TICO提供

日に出発した吉野川市のさくら診療所理事長・吉田修さん（63）は23日に帰国、現地の様子を語った。

吉田医師によると、20日から活動した国境の町ザホニーでは、駅でウクライナから国境を越えてくる国際列車で避難する人々の診察に当たったという。

列車には女性や子どもが多く乗り、疲れ果てた様子の人もいた。見聞きした話では、列車に乗るためにウクライナの駅で数日間待った人もいたという。「怖くてバスに乗れなかった」という女性や、子どもの前で気丈に振る舞う母親の姿もあり、吉田医師は「いたたまれなかった」と語った。

避難してきた人は列車を乗り継いだり、親戚の迎えの車に乗ったりして、更にドイツやスペインまで避難する人も多いという。一方、ウクライナ行きの

列車に乗る人もいた。戦闘が小規模になっていっているうちに、ロシア軍と戦闘する夫を心配して会いに行く妻や、ウクライナ軍に参加しようとする兵士の姿だという。

吉田医師は「ロシアは言論を統制し反対派を抑え付け、プーチンのような独裁

者を生んだ。日本も高い民主主義を守らないと、言いたいことが言えない国になる」と語った。

両NGOでは、31日時点で医師2人、看護師1人、調整員1人が、国境のベレグスラーニー村の仮設診療所で活動。現地の医師や看護師らと交代で24時間の診

察などを続けており、1日あたり、15人から20人の患者が来ているという。4月2日にも、医師1人をハンガリーに追加派遣する予定で、今後、再び戦闘が激化することに備え、一定期間、医師らを現地にとどめる考えという。

（神崎卓征）